

令和5年度

印西市民アカデミーだより

第12号

講座13：歴史散策③ 瀬戸地区

11月4日(土)、瀬戸地区にある合集山徳性院多門寺(真言宗豊山派)前の通りから見る夕焼けの絶景を目指して印旛公民館を午後3時に出発。途中、無量壽山願定院本願寺(天台宗)と瀬戸宗像神社に立ち寄りながら秋の散策を楽しみました。今年は、記録的な暑さが続いている影響で紅葉が大幅に遅れているようです。願定院の境内にある大イチョウが色づくとも境内が黄金色の葉で埋め尽くされ、真っ赤に染まったカエデと朱色の馬頭観音堂とのコントラストが素晴らしい景色が見られるのですが、未だに緑色の葉のままで残念です。本寺の馬頭観音堂は、「日本無双開運出世馬頭観音」として広く信仰されてきました。お堂の正面上部には白馬の彫刻が飾られており、軒の天井には天女が描かれています。この地域には、白馬にまつわる伝承もあり、大変興味が惹かれます。



二体の天女が舞っている

徳性院から南に100m程離れたところの三差路にある瀬戸宗像神社は、市内13社ある宗像神社の中でも唯一朱色に塗られており、鳥居も両部鳥居が建てられています。境内は巨木に囲まれており、悠久の時を感じることができます。神社の向かいにある塚の上には、数基の石碑が建てられています。注目すべき石碑は、大黒様を刻んだ「甲子塔」と梵字で書かれた曼荼羅を刻んだ「光明神咒供養塔」です。市内には、たくさんの「庚申塔」が建てられていますが、「甲子塔」はここだけのようです。「光明神咒供養塔」も数本しかなく、ここの塔が一番大きく立派です。珍しい七観世音供養塔も建立されています。



珍しい七観世音供養塔も建立されています。

神社前の農道を800m程南西に進むと、眼下に印旛沼を望む丘に出ます。この日は、季節外れの南風が吹き、富士山を望む方角には雲に覆われており、遠方を望むには最悪の天候となってしまいました。日の入りの時刻のころには雲が切れることを期待しながら、合集山徳性院多門寺を見学しました。本寺は、江戸時代、沼の航路安全を祈願するために近隣寺院を併合して現在の地に建立されました。山門をくぐると左手に観音堂があり、御本尊の「十一面観世音菩薩」が安置されています。子育てや学業成就に効験があり、地域の方々に慕われてきました。

いよいよ日の入りの時刻の午後4時40分、見晴らしの良い場所に移動して富士山の出現を願いましたが、厚い雲に覆われたグレーの景色にガックリ!!後日リベンジしたいと思います。※この地から夕日のダイヤモンド富士を眺められるのは、10月31日と2月20日ごろの年2回です。是非チャレンジしてみてください。



粘って待ってはみたが…



4年前のダイヤモンド富士